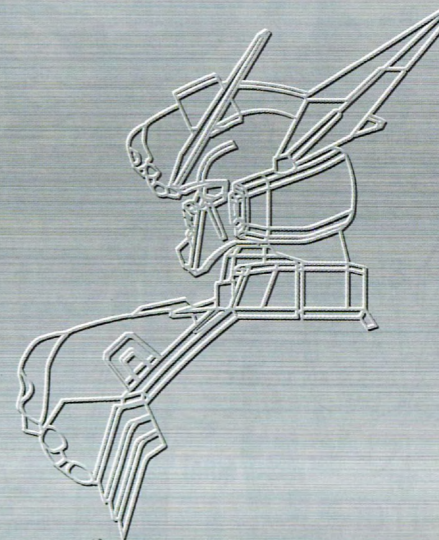




MOBILE SUIT
XM-X1

CROSSBONE GUNDAM X-1 FullCloth

S.N.R.I. PROTO TYPE
MOBILE SUIT



S.N.R.I. 試作モビルスーツ XM-X1
「クロスボーンガンダム X-1フルクロス」
1/100スケール
マスターグレードモデル

CROSSBONE GUNDAM X-1 FullCloth

S.N.R.I. PROTO TYPE MOBILE SUIT XM-X1



S.N.R.I.
試作モビルスーツ
XM-X1「クロスボーンガンダム X-1フルクロス」
1/100スケール
マスターグレードモデル

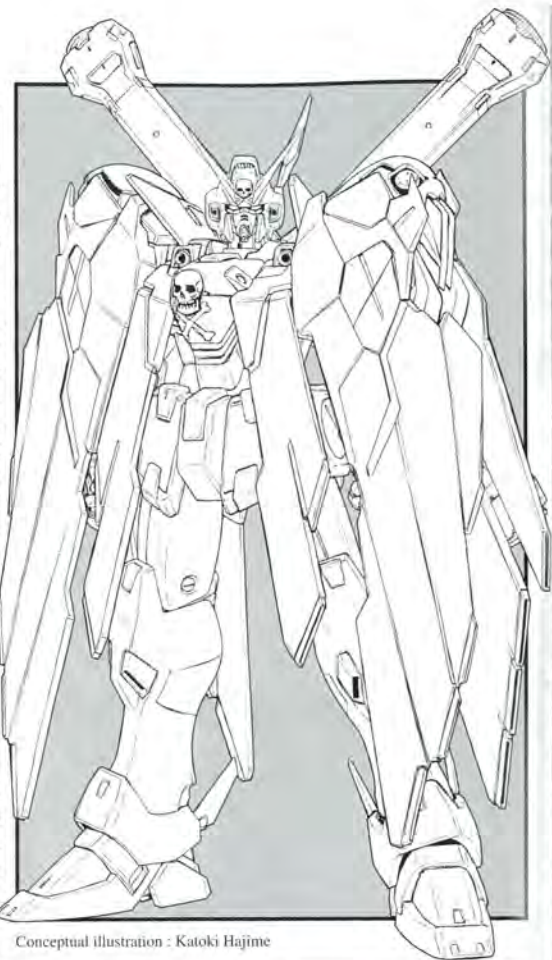
BANDAI 2007 MADE IN JAPAN



0148827

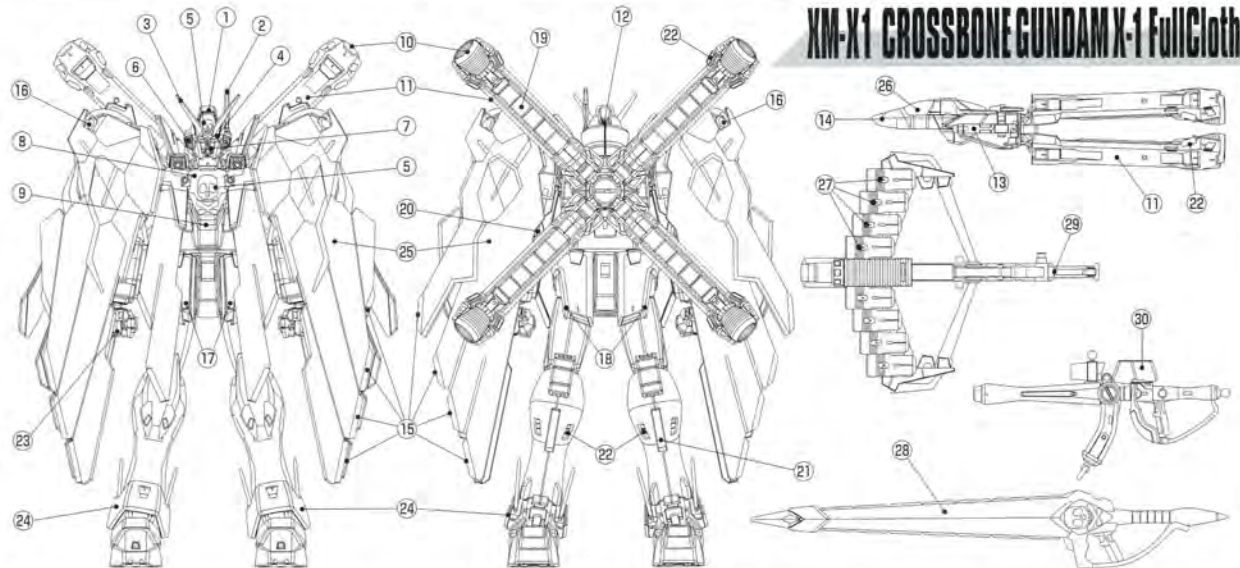
CROSSBONE GUNDAM X-1 FullCloth

「クロスボーンガンダム」は、U.C.(宇宙世紀)0123にコスモ・パビロニア連国戦争を引き起こしたクロスボーン・パンガード(C・V)が、木星帝国(ジュピターエンパイア)と戦うために調達したMSである。本格的に他惑星(特に木星)域における運用を前提として開発した初めての機体でもあり、新機軸の装備や武装が施されている。製造したサナリイ(S.N.R.I.=Strategic Naval Research Institute~海軍戦略研究所~)における開発時の形式番号は「F97」だが、C・Vへ譲渡する際に製造元の秘匿のため「XM-X(不明)」と変更された。本機の最大の特徴は、F90Y クラスタガンダムに準じたコア・ブロックシステムの採用と、背部に装備された4基のスラスタユニットがX字型に展開する長大なブラスターユニットである。このブラスターは、木星圏の高重力に対応すべく開発されたもので、メイン・スラスタの支点や作用点を自在に動かすことで、当時のMSの標準的な機体重量を保ったままでの超高速機動化を達成している。さらに、F91と同様、最大稼働時にはフェイスガードが解放されて強制冷却機構が作動するが、これはF91と比較して装甲が厚く、フレームの閉塞箇所も多い事から、機体構造がより発熱しやすくなっているために設けられているものであり、F91のプロトタイプに搭載されていたような、いわゆるNT能力の発動や判定などは無関係であるとされている。本機はU.C.0133における最強の機体と評されることもあるが、その挙動や武装が非常に癖のある特殊なものであるため、乗り手を選ぶ機体となっている。クロスボーンガンダムが真価を発揮するのは、あくまで優秀な(いわば“相性”の良い)パイロットが搭乗した場合に限られるのである。初期に配備されたX1、X2のスペックは、機体色とアンテナ形状、武装以外ほぼ同一である。X1改・改は、木星戦役終結時にキングドムの乗機だったX1改をさらに改装した機体で、胸にドクロのレリーフが施されている以外、装備はX1とX1改の中間的なものとなっており、木星帝国との戦闘終結後、廃品回収と運送業を営む「ブラックロー運送」を表向きの生業とするクロスボーン・パンガード(海賊軍)残党においてトビアが乗機としている。開発したサナリイは、実験機のトライアルの一環として補給を続けており、バックアップ体制も、細々とではあるがそれなりに継続されていた。U.C.0136年、木星戦役終結後も、ブラックロー運送の営業地域ではジオン公国軍や木星帝国の残党との小競合が頻発しており、その際、目撃情報などから本機は「スカルハート」と呼ばれ、その名は巷間に風説として流布していた。そんな中、木星帝国は連邦による査察の目をかいくぐり、地球を直接狙撃可能なコルナー・レーザー“シンヴァツ”を完成させようとしていた。と同時に、その作戦の障害となる可能性がある“海賊軍”を探り出して排除するための特殊部隊を地球圏に派遣していた。クラックス・ドゥガチの後を受けて新総統となった双子のカリストの半身“闇のカリスト”が率いるその派遣部隊は、トビアたち海賊軍残党とその協力者を暴き出したばかりか、サナリイの月面基地をも破壊させてしまふ。その際、壊滅的な打撃を受けたX1改・改は、残されていたX3のパーツなどを寄せ集めて修復される。新装備の「フルクロス」は、ABC(Anti Beam Coating)マントの素材を積層させて成形したもので、なげなしの同装備をリサイクルし、かつ無駄なく活用するためのものである。一層あたりABCマントと同様の機能を持つため、耐ビーム能力が積層した枚数分向上している。また、ショルダーアーマーとして追加されたスカルヘッドユニットは、X3のものより強力な1フィールド・ジェネレーターを内蔵しており、ボクシンググローブのように腕部に装着してナックルガードとして使用する事も可能である。



Conceptual illustration : Katoki Hajime

XM-X1 CROSSBONE GUNDAM X-1 FullCloth



- | | | | | |
|------------------|--------------|---------------------|--------------------|----------------|
| ① マルチプルセンサーアレイ | ⑦ フェイスガード | ⑬ ビーム・サーベル | ⑲ コンフォーマルタンク | ⑳ ABCプレート |
| ② 無段階方位アンテナ | ⑧ コクピットハッチ | ⑭ コア・ファイター | ㉑ ブランドマーカークロウ・シールド | ㉒ コクピット |
| ③ ブレードアンテナ | ⑨ インテーク/ダクト | ⑮ レフィジューレ-ションダクト | ㉓ ビーム・エミッター | ㉔ ヒート・ダガー |
| ④ チュアルセンサー | ⑩ メインスラスタ | ⑯ フィールド・ジェネレーター | ㉕ サブスラスタ | ㉖ ムラササ・プラスタ |
| ⑤ スカル&クロスボーンレリーフ | ⑪ フレキシブルラダー | ⑰ フロントアーマー/シガー・アンカー | ㉗ マニピュレーター | ㉘ ビーコック・スマッシャー |
| ⑥ バルカン砲 | ⑫ リアカメラ/センサー | ⑱ スクリュー・ウェーブ | ㉙ アンクルサポートユニット | ㉚ ザンバスター |

注) XM-X1 クロスボーンガンダムフルクロスは、U.C.0136年、木星軍の襲撃により破壊されたクロスボーンガンダムX1改・改に、X3の予備パーツなどを組み込んで改修を施した上で、耐ビーム防御用のフルクロスを装備したものである。実験艦「スピードキング」を調達し、「鋼鉄の七人」の内のひとりとして木星へ向かうトビアのため、海賊軍残党の母艦「リトルグレイ」において実装された。

組み立て前の基本説明

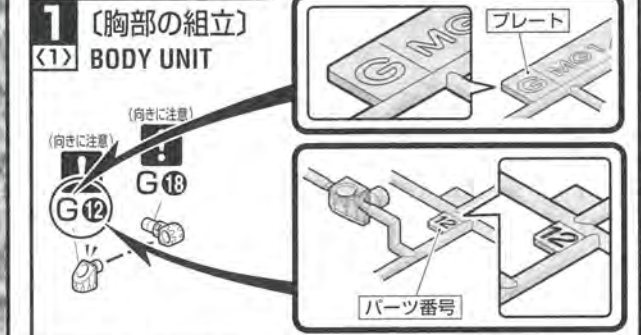
必要な道具

- 〈ニッパー(プラスチック用)〉
・パーツをランナーから切りはなしてゲートを取るのに使います。
- 〈ピンセット〉
・小さい部品を取り付けたりシールを貼るのに便利。
- 〈はさみ〉
・ガンダムデカールを切りはなす際に使用します。

※この商品に道具類は入っていませんので、別にご用意ください。

説明書の見かた

説明書のパーツに書いてある番号と同じものをランナーから探しましょう。(パーツリストと合わせて見ると、探しやすいでしょう。)



パーツの切り取りかた

- まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。
- パーツを切り離して持ちやすくなったところでゲート跡の処理に入ります。
- ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。

アンダーゲートの切り取りかた

- ※A⑩は下の図のように切り取ります。
- 1
 - 2

ガンダムデカールの貼りかた

- ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。
 - 保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、ずれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物ですりつけて定着させます。
 - シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度すりつけます。
- ※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。

説明書をよく読んで完成させましょう



注意

必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

〈組み立てる時の注意〉

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

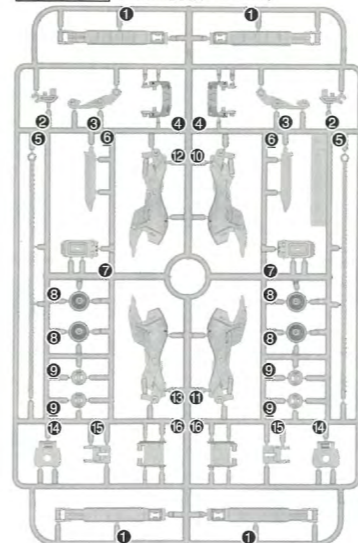
・接着をするところ	・シールの番号	・デカールの番号	・反対側に取り付けるパーツ	・両側に同じパーツを取り付ける	・向きに注意して取り付ける	・ビスの締めすぎに注意
・切り取る場所	・部品を数値の個数作ります	・先に組み立てます	・後に組み立てます	・数値に合わせて回転させます	・どちらかを選んで取り付ける	・反対側も同じように動かします

パーツリスト (X印は使用しないパーツです。)

Aパーツ (スチロール樹脂: PS) **Bパーツ** (スチロール樹脂: PS) **Dパーツ** (スチロール樹脂: PS)

Cパーツ (スチロール樹脂: PS) **Eパーツ** (スチロール樹脂: PS) **Fパーツ** (×2) (ABS樹脂: ABS) **Gパーツ** (ABS樹脂: ABS) **Hパーツ** (ABS樹脂: ABS)

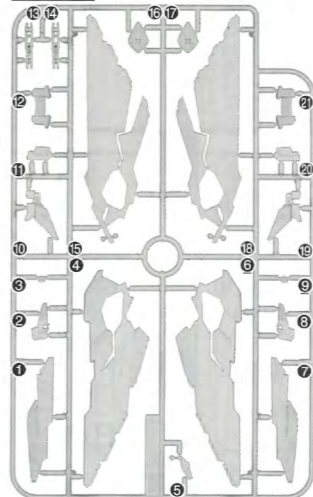
Iパーツ (ABS樹脂: ABS)



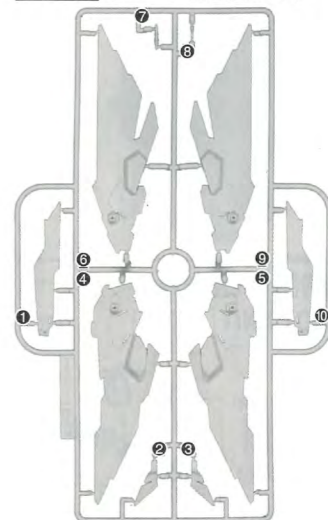
Jパーツ (ABS樹脂: ABS)



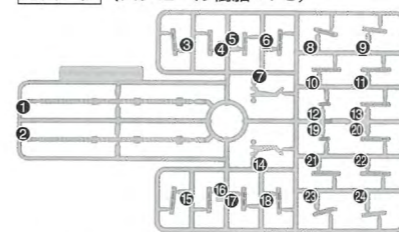
Kパーツ (スチロール樹脂: PS)



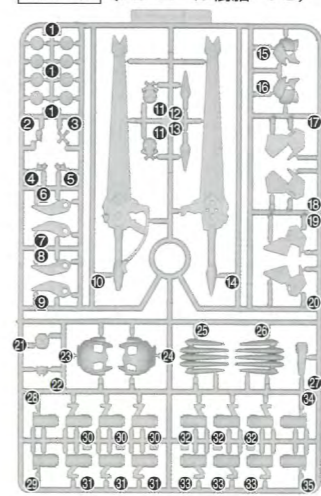
Lパーツ (スチロール樹脂: PS)



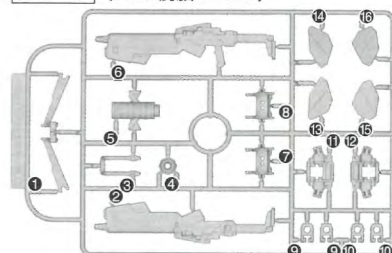
Mパーツ (スチロール樹脂: PS)



Nパーツ (スチロール樹脂: PS)



Oパーツ (ABS樹脂: ABS)



ビーム・シールド (PET樹脂: PET)

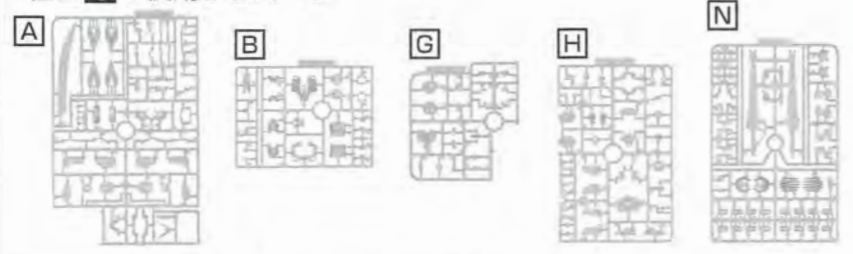


- カラーシール……………1枚
- マーキングシール……………1枚
- ガンダムデカール……………1枚
- リード線……………2本 (塩化ビニル樹脂: PVC)

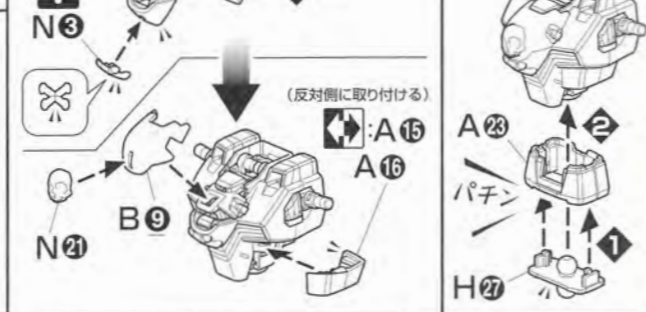
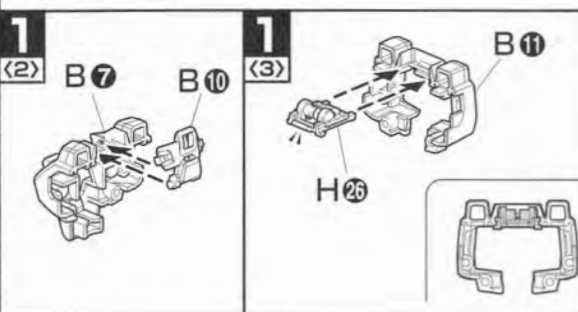
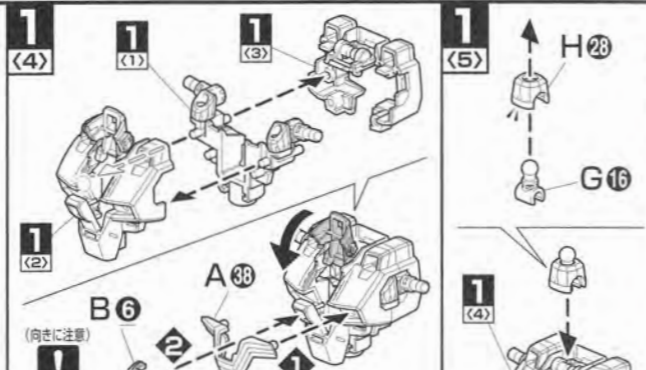
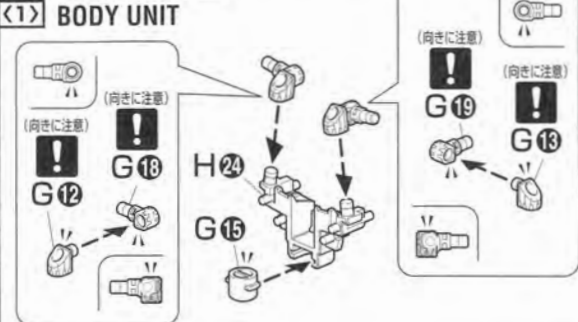
(基本説明) HOW TO
 (部品表) PARTS LIST
 (胸部) 1 BODY UNIT
 (頭部) 2 HEAD UNIT
 (腕部) 3~7 ARM UNIT
 (脚部) 8~9 LEG UNIT
 (腰部) 10~11 WAIST UNIT
 (完成) 12 FINAL ASSEMBLY
 (コア・ファイター) 13~14 CORE FIGHTER
 (フルクロス) 16 FULL CLOTH
 (武器) 15~17 WEAPONS
 (シール) SEAL

1 BODY UNIT

・組立1で使用するパーツ

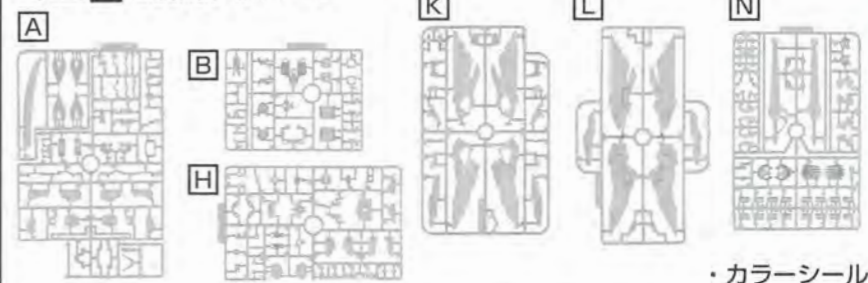


1 (胸部の組立) BODY UNIT

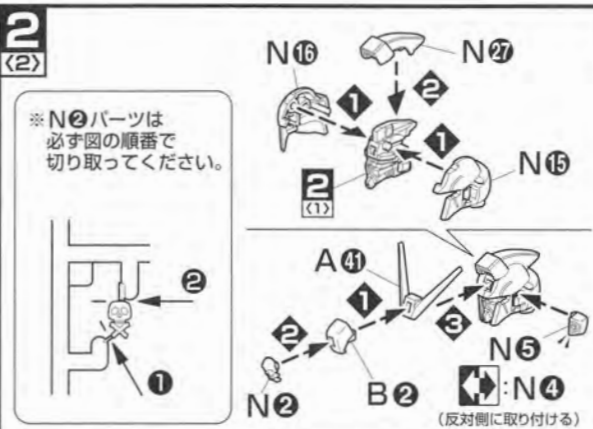
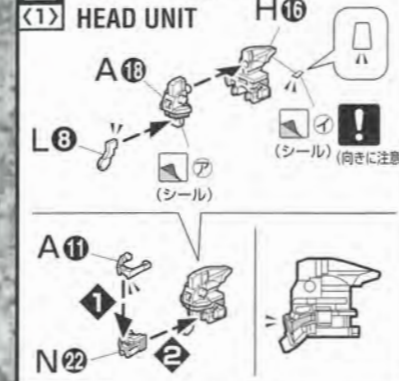


2 HEAD UNIT

・組立2で使用するパーツ

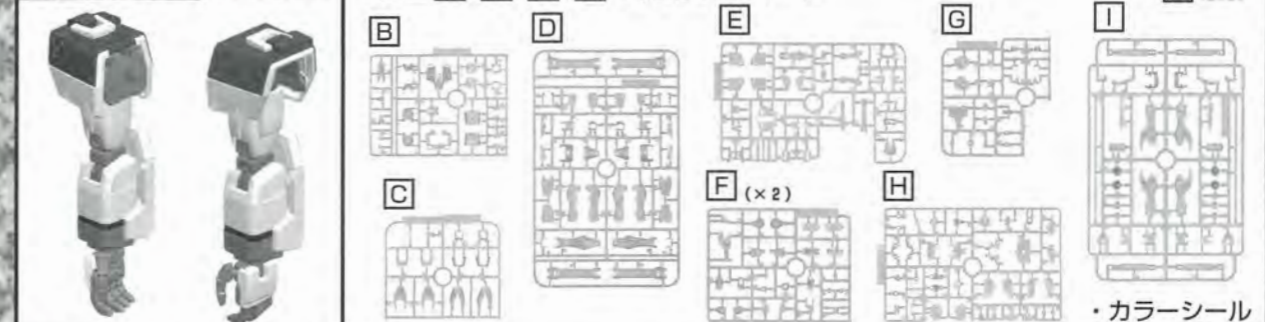


2 (頭部の組立) HEAD UNIT

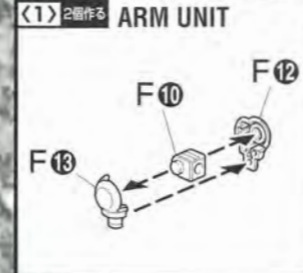


3 4 5 6 ARM UNIT

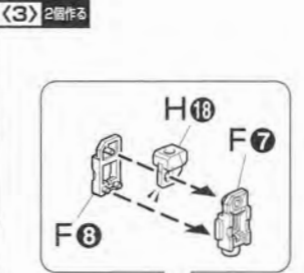
・組立3・4・5・6で使用するパーツ



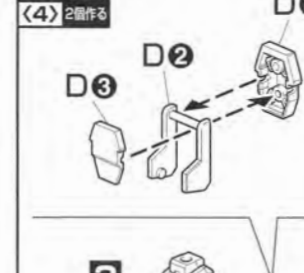
3 (腕部の組立) ARM UNIT



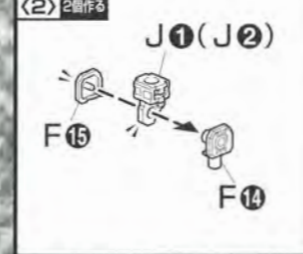
3 (左腕の組立) LEFT ARM



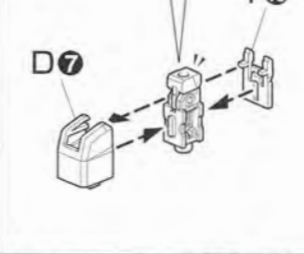
3 (右腕の組立) RIGHT ARM



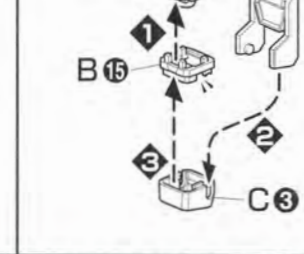
3 (腕部の組立) ARM UNIT



3 (左腕の組立) LEFT ARM

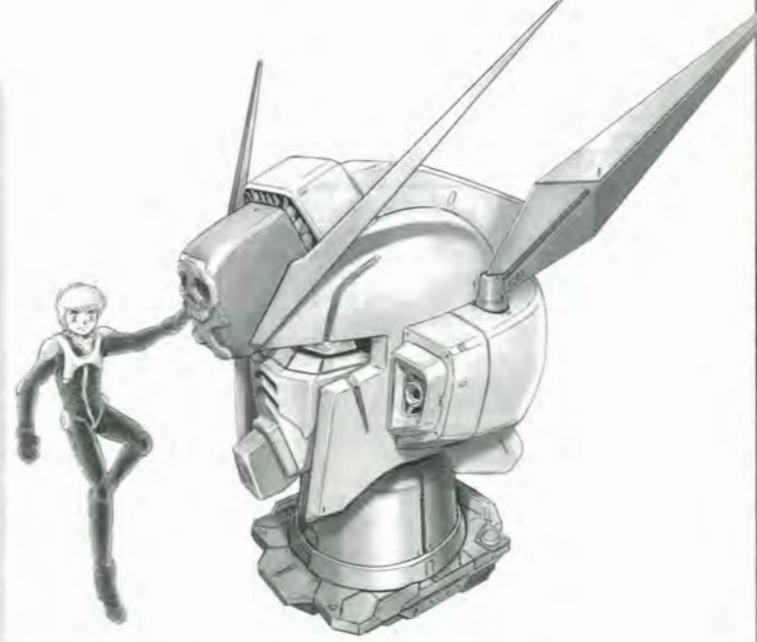


3 (右腕の組立) RIGHT ARM



HEAD UNIT (頭部)

「クロスボーン・ガンダム」のヘッドユニットは、基本的な仕様はあるものの、アンテナ類やセンサーの形状などは時期によって異なっている。特に「フルクロス」バージョンは、ロールアウト時の形状を保っているパーツは皆無に近い。XM-X1~X3 (F97) の頭部構造は基本的に同じであり、センサーアレイとしての機能に加え、バルカン砲とメイン・コンピューターのサブプロセッサによって構成されている。事実上、サナリイによるF(フォーミュラ)計画の延長線上にある機体であるため、特にF90ⅢYタイプクラスターガンダムを原型とするアーキテクチャが採用されている。ただし、コア・ファイターとのリンケージシステムを除けば、メインフレームの構造は、むしろF91の発展型となっている。特徴的なのは、強制冷却機構を積極的に採用している事である。F91の場合、緊急避難的なリミッター解除のために設けられていたが、F97はむしろ、危機的な状況に陥らないように、その寸前のタイミングで最大稼働を始める事で危機的な状況を回避するように調整されている。



Mechanism illustration : BEE-CRAFT Character illustration : Yuichi Hasegawa

3 (6) 右腕の組立

向きに注意

向きに注意

4 (左腕の組立) (1) LEFT ARM

向きに注意

向きに注意

4 (2) 右腕の組立

向きに注意

向きに注意

5 (2) (肩の組立) SHOULDER

7 (上半身の完成) UPPER BODY

2で作った頭部

1で作った胸部

5で作った右肩

6で作った左肩

3で作った右腕

4で作った左腕

5 (右肩の組立) (2) RIGHT SHOULDER

カ (シール)

6 (左肩の組立) LEFT SHOULDER

カ (シール)

8 9 LEG UNIT

・組立8・9で使用するパーツ

A B C D E F (x2) H I

8 (1) (脚部の組立) LEG UNIT

※各部品は、きれいに切り取ります。

※F22は、先に組む

8 (2) 脚部の組立

※各部品は、きれいに切り取ります。

8 (3) 右脚の組立

(後に組む)

8 (4) 脚部の組立

※F24は、ピンを切り取らないように注意してください。

8 (5) 脚部の組立

(先に組む)

8 (6) 脚部の組立

※きれいに切り取ります。

A39 A40 (反対側に取り付ける)

8 (6) 左足の組立

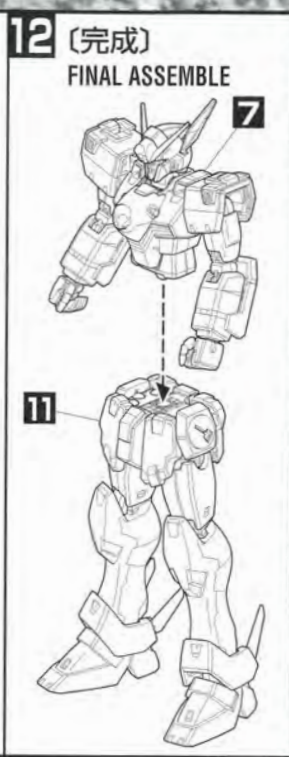
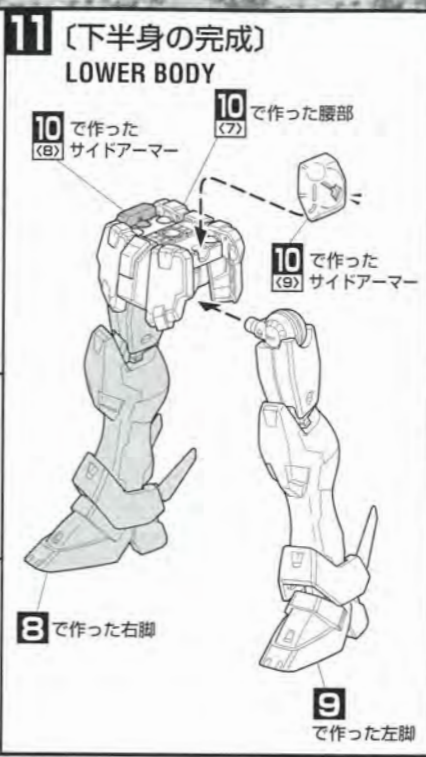
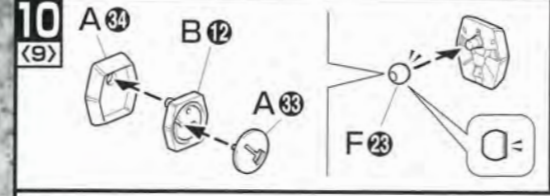
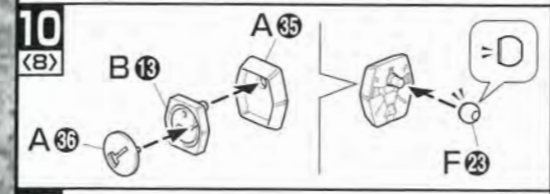
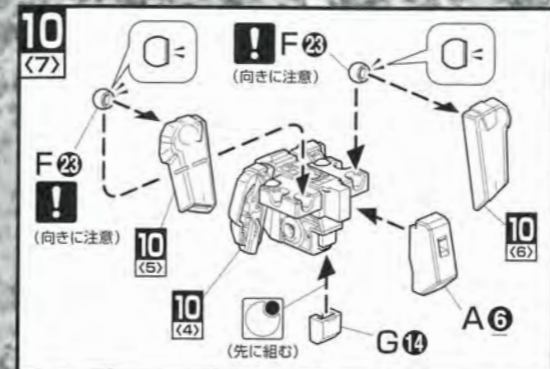
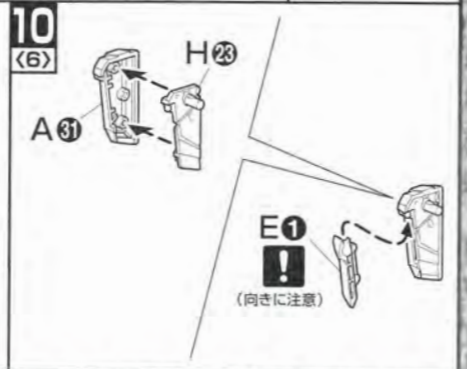
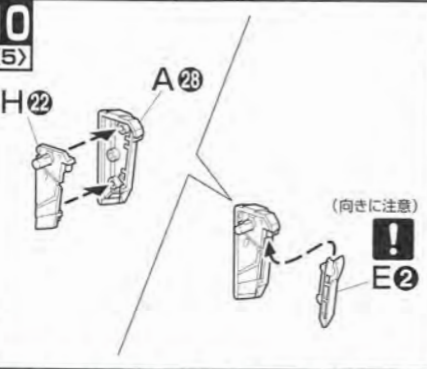
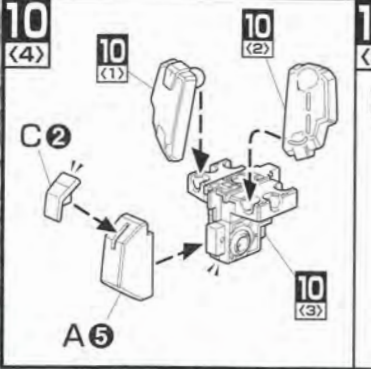
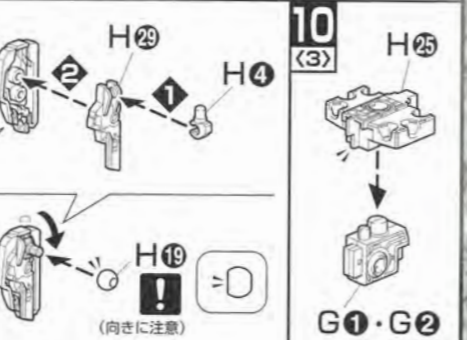
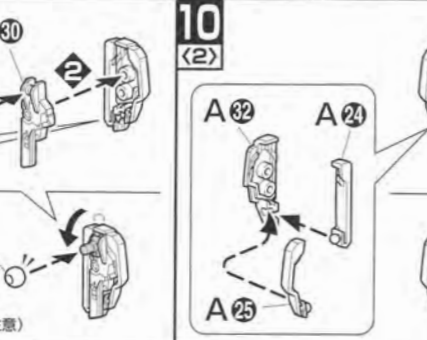
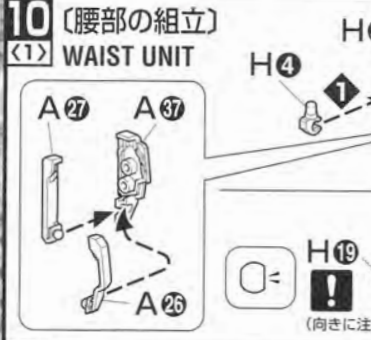
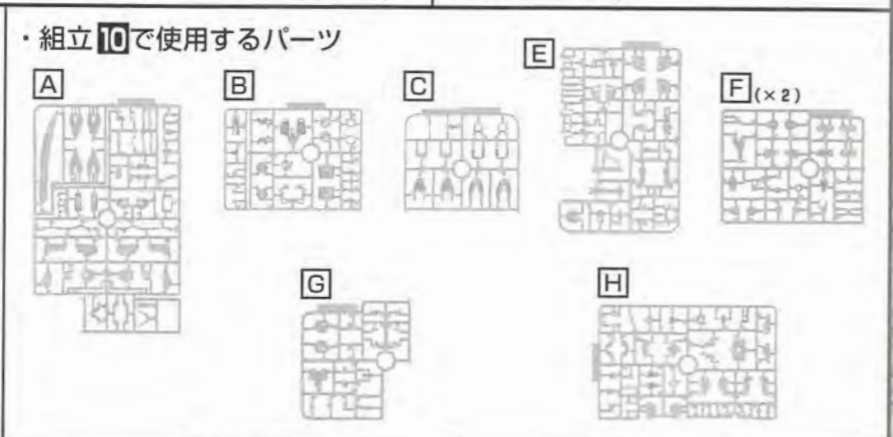
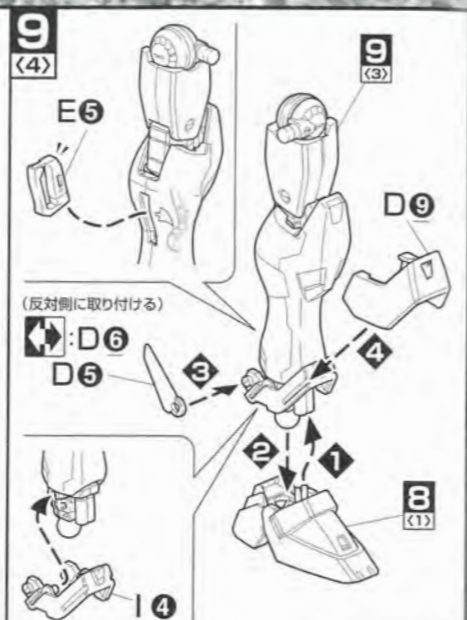
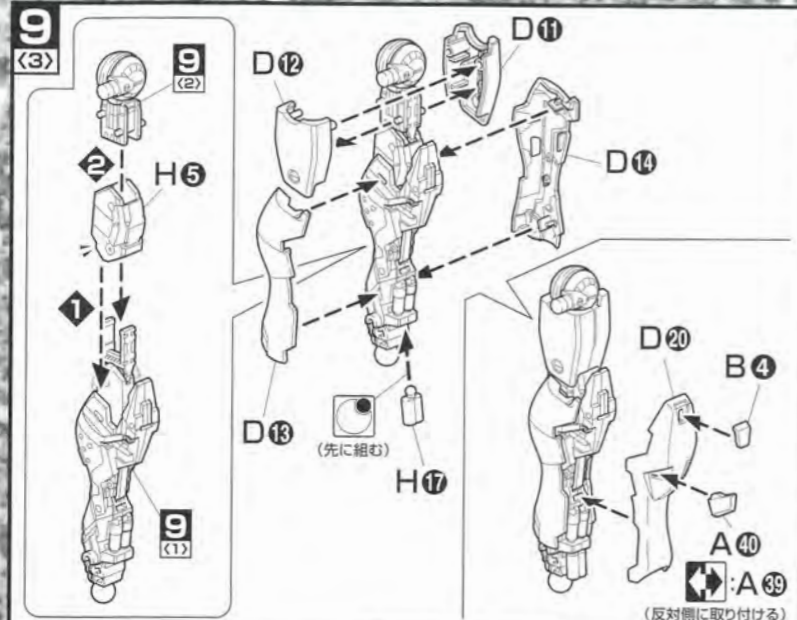
D6 (反対側に取り付ける)

9 (1) 左足の組立

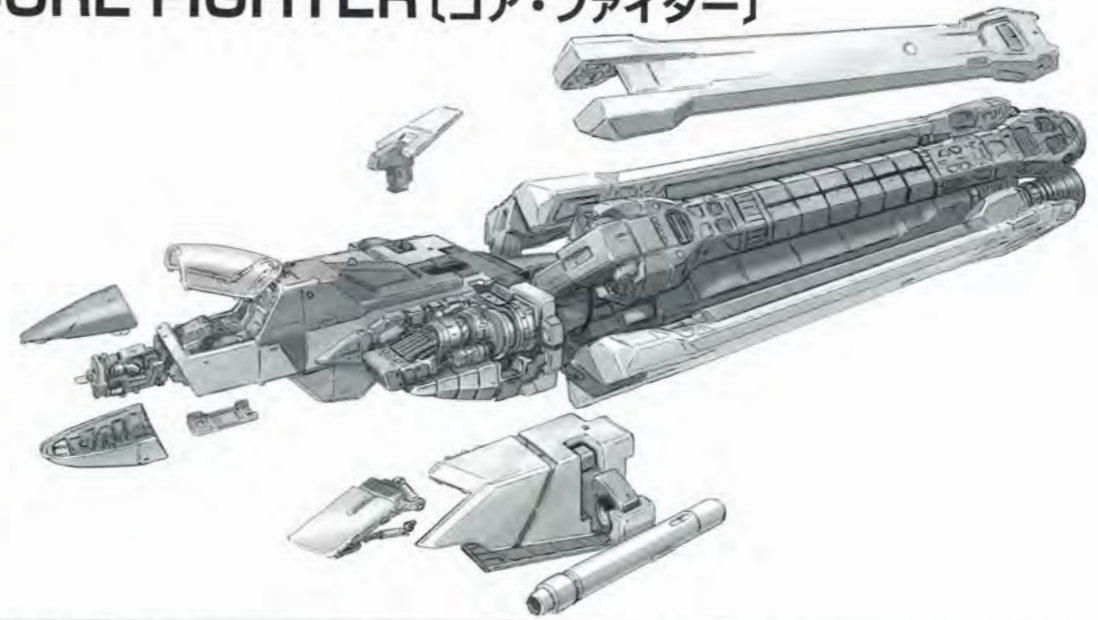
(後に組む)

9 (2) 左足の組立

※F24は、ピンを切り取らないように注意してください。



CORE FIGHTER (コア・ファイター)



XM-X1~X3 (F97) に採用されているコア・ファイターは、コクピットブロックとエンジブロックという基本的な構造にブースターを追加するという構造を持つ。その推力は膨大で、コア・ファイターのみであれば、木星の大気上層からでも脱出できると言われている。

U.C.0120年代以降、サナリのみならずAE (アナハイム・エレクトロニクス社) もコア・ブロックシステムを採用した機体をいくつか試作しており、コア・ファイターの機体後部にブースターなどの追加ユニットを装備して、機能の強化や特化を行うというアプローチが繰り返されていた。クロスボーン・ガンダムが採用しているコア・ファイターは、基礎構造こそクラスターガンダムを参考としているが、実際にはさらにシステムティックに洗練されており、よりマルチプルな運用が指標として想定されている。機体後部を構成するブースターユニットは、ジェネレーターに直結する形で据え付けられており、構造的には既存の機体のメインスラスターと変わらない。ただし、その作用点が機体の質量重心から離れているため、姿勢制御や方向転換をより能動的かつ高効率で行う事ができる。さらに、ラダー部分の内側には数種の燃焼材が選択可能なコンフォーマルトンクが据えられている。これは、プロペラントタンクの後端にバーニアを装備したシュツルムスラスターユニットと似た構造ではあるが、その設計意図にはかなりの隔たりがある。



FULL CLOTH

U.C. (宇宙世紀) 0136年。木星戦役から3年後、コロニー・レーザーで木星軌道から直接地球を狙撃する「神の雷」計画が発覚した。トビア・アロナクスをはじめとする海賊残党は再び立ち上がった。まずは木星へ行く手段を得るべく、トビアらは月面のサナリィへと向かう。そこに、木星帝国の尖兵が襲いかかってきた。現総統の双子の半身「影のカリスト」率いる木星軍との戦闘によって、「スカルハート」と呼ばれたクロスボーンガンダムX1改・改は、壊滅的な損傷を被ってしまった。しかし、トビアたちは諦めなかった。わずかにストックされていたX3のものを含むパーツを使って機体を蘇らせ、さらに補給艦の「リトルグレイ」で、ABC (アンチ・ビーム・コーティング) マントの生地をリサイクルした耐ビーム装備の「フルクロス」を装備する。

THE STEEL SEVEN

当初、トビアはひとりだけでもこの作戦をやり遂げるつもりであった。木星までの行程は普通、最短でも三ヶ月はかかってしまう。そこで、史上最速の加速能力を持つ「光の翼 (ミノフスキー・ドライブ)」を装備するサナリィ製の試作MS、「F99 レコードブレイカー」での単独航行も辞さない覚悟だったのだ。ところがそれは木星帝国の知るところとなり、3機のF99はサナリィの基地ごと、そのデータまで破壊されてしまった。もはやトビアたちに戦術は無いかに思われた。だが、サナリィの技術者オーティスには心当たりがあった。競合するAE (アナハイム) がF99を模倣した機体「イカロス」を開発していたはずだ、と。その機体を探し、地球へ向かったトビアたちは、さらに地上で暮らしていたかつての敵パイロット「死の旋風隊 (デス・ゲイルズ)」の3人をメンバーとして糾合し、苦心の末にイカロス～AEが開発していたミノフスキー・ドライブ搭載機「スピードキング」を調達した。そして今、トビアたち「鋼鉄の七人」は木星を眼前に臨む宙域に到達した。木星帝国のコロニー・レーザー発射まで残された時間はあとわずかだ。それぞれの決意を胸に、鋼鉄の七人は出撃する。



SKULL HEART SALLY FORTH!!

トビアたち「鋼鉄の七人」は、スカルハートフルクロス、そしてガンダムF91、F90I インターセプトなど、調達可能な鹵獲機を含むあらゆる機体をかき集めて部隊を編制していた。さらにその士気は並々ならぬものであった。特に、かつての敵、「死の旋風隊」を含む精鋭メンバーであったギリは、トビアへの敵愾心をあらわにしながらも、さらに強く現総統の双子、カリスト兄弟を憎悪していた。トビアはその激烈さに不安を覚えつつ、心強く感じていた。かつてカリストの変幻自在な戦い方に翻弄され、一敗地にまみれたことのあるトビアは、自らを「サイキッカー」と称するカリストの異常な戦闘能力に対抗する術を持たなかったからだ。しかし今は、かつて敵として戦ったギリ、バーンス、そしてローズマリーの三人が、心強い味方となってくれている。木星帝国の陰謀は必ずや阻止されることだろう。かくして、木星軍との戦闘の火ぶたが切って落とされた。無数のビームが交錯する中、トビアのフルクロスはその火線をかいくぐり、ビーコック・スマッシャーを撃つ。はたしてトビアたちは地球を守る事ができるのか!?



COMICS

原典: 月刊ガンダムエース・角川書店

■「クロスボーンガンダムシリーズ」とは!?
 コミックス「機動戦士クロスボーンガンダム」「機動戦士クロスボーンガンダムスカルハート」及び、「月刊ガンダムエース」(角川書店刊)にて連載の「機動戦士クロスボーンガンダム 鋼鉄の七人」は「機動戦士ガンダムF91」の続編に当たり、ペラ・ロナを中心として再興したクロスボーン・バンガードと、木星圏を根拠とする木星帝国 (ジュビター・エンパイア) との壮絶な戦いを描いた物語である。
 原作: 矢立肇・富野由悠季 漫画: 長谷川裕一

■トビア・アロナクス
 U.C. (宇宙世紀) 0133年。交換留学生として木星へ向かう途中、後に「木星戦役」へと発展する争乱に巻き込まれる。その絶体絶命の危機をキングドゥ・ナウ (シーブック・アノー) に助けられたことから、C-V (クロスボーン・バンガード) に参画。MSパイロットとして戦い、最終決戦においてはクロスボーンガンダムX3を駆って木星帝国のドッグチ総統を倒し、地球圏を救った。木星戦役終結後、キングドゥよりクロスボーンガンダムX1改を譲り受けて愛機とし、ジオン残党や木星帝国残党との小競り合いでも活躍。X1改の胸のエンブレムから「スカルハート」と呼ばれていた。そしてU.C.0136年、木星帝国の新たな陰謀を知ったトビアは、それを打ち砕くべく、再び戦いへと身を投じる。

PAINTING

※よりリアルに仕上げたい場合は、下の基本色をご覧ください。 ※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
 ●このキットをよりリアルに塗装したい方は、(株)GSIクレオスより発売のガンダムカラー等をお使いください。 ※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。
 ●ABS樹脂部分への塗装は塗料の乾燥が完了するまで、塗装はお控えください。

クロスボーンガンダム X-1フルクロス

<ul style="list-style-type: none"> 本体等ホワイト部の塗装色。ホワイト (100%) + ネービーブルー (少量) 胸等ダークブルー部の塗装色。インディブルー (45%) + ブラック (35%) + パープル (20%) + ピンク (少量) クツ等レッド部の塗装色。モンザレッド (100%) インテーク等イエロー部の塗装色。イエロー (50%) + ホワイト (35%) + オレンジ (15%) 	<ul style="list-style-type: none"> 内部フレーム等グレー部の塗装色。ニュートラルグレー (60%) + マホガニー (40%) ビーコックスマッシャー等ダークブラウン部の塗装色。マホガニー (100%) 後頭部センサー等グリーン部の塗装色。イエローグリーン (100%) カメラアイクリアグリーン部の塗装色。クリアグリーン (100%) 	<ul style="list-style-type: none"> コア・ファイター バインダー等ライトグレー部の塗装色。ニュートラルグレー (45%) + マホガニー (30%) + ホワイト (25%) ナイフ ブレード等タークグレー部の塗装色。ネービーブルー (65%) + ニュートラルグレー (25%) + インディブルー (10%) バーニアノズル等ブルーグレー部の塗装色。ネービーブルー (85%) + ミディアムブルー (15%) コア・ファイター キャノピー スモークグレー部の塗装色。スモークグレー (100%)
--	---	---

ワンポイントステップ

スミを入れてみよう!!
 ガンダムマーカ―/スミ入れ用 (別売り) などを使用して、ミノの所に線を引くことで、模型が引き締まります。



[before]



[after]



▲フルクロス・ユニットの接続部は幅広い可動範囲を持ち、肩部装甲の可動と相まって腕の可動を妨げることなくダイナミックなアクションポーズを演出。

▲胸部コックピットハッチは開閉式。クリアパーツで成形されたコア・ファイターのキャノピーも本体に合体したまま開閉することが可能。ノーマル・スーツ姿のパイロットが付属。



▲「海賊」というキーワードをもとにデザインされた特徴的で、多彩な武装を豊富に立体化。ムラサキ・ブラスターやブランド・マーカ―など個性的な形状のビーム刃を再現。ビーム・シールドはPET素材を使用する事でパーツを薄く、グラデーションプリントによってビームを演出し、質感豊かに再現。

▲肩部のドクロレリーフをボクシンググローブのように手に装着可能。



・組立 13・14 で使用するパーツ

・カラーシール
・リード線(×2)

13 (コア・ファイターの組立) <1> CORE FIGHTER

※きれいに切り取ります。組立前の基本説明を参考にしてください。

13 <2>

13 <3>

13 <4>

13 <5> 4個作る

13 <6>

×4 (4枚貼る) (シール)

14 (コア・ファイターの変形) <1> TRANSFORMATION

14 <2>

15 (武器の装備1) <1> WEAPONS EQUIPMENT 1

(両側に取り付けられます)

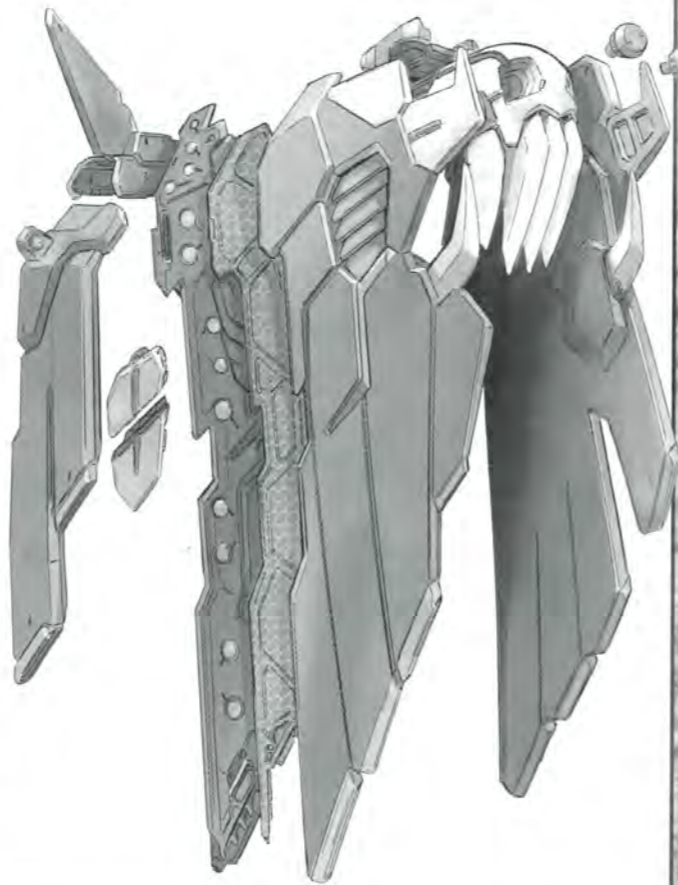
15 <2>

(両腕に取り付けられます)

FULL CLOTH (フル・クロス)

フルクロスは、クロスボーン・ガンダムが纏っていたABC (Anti Beam Corting) マントを積層して成形したものである。さらに、ショルダーアーマーとして追加されたスカルヘッドユニットには、1フィールドジェネレーターが内装されており、耐ビーム効果をさらに強化している。

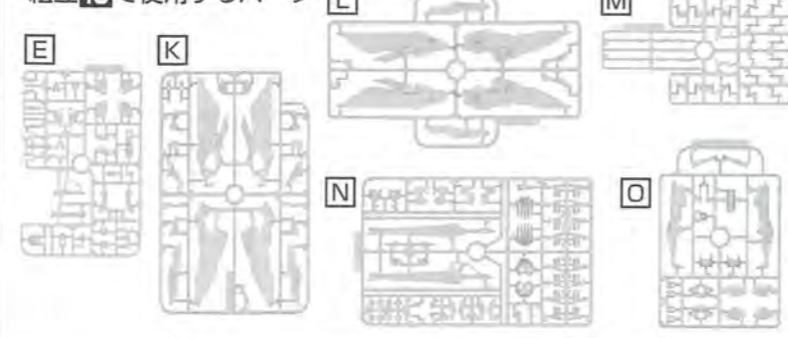
アンチ・ビーム・コーティングマントは、特殊な繊維と耐ビーム材を織り込んだ特殊装備で、ビーム砲などの直撃を受けた際、蒸散したり破損することで機体をダメージから防御する。ただし、コストが高い特殊な装備であり、量産化も頓挫したため、木星戦役以降は生産されることもなく、海賊軍のストックも払底しつつあった。そこで、端切れなどの残った素材を積層して成形し、半硬質なプレートに加工して新たな防御装備とした。積層した枚数分の防御のみならず、ラミネート構造としたことで、レイヤーごとに機能を分担させて耐弾性を向上させている。ただし、もともと破壊されることでビーム砲の威力を減免する装備であることになり、それを補うためにショルダーアーマーがスカルヘッドユニットに換装された。このユニットは、もともとX3の腕部に内装される予備デバイスを用いたもので、より大きな範囲のビームから身を守る事ができる。また、このスカルヘッドユニットは、マニピュレーターでグローブのように扱う事が可能であり、近接戦闘時には攻撃に転用する事も可能となる。



16 FULL CLOTH

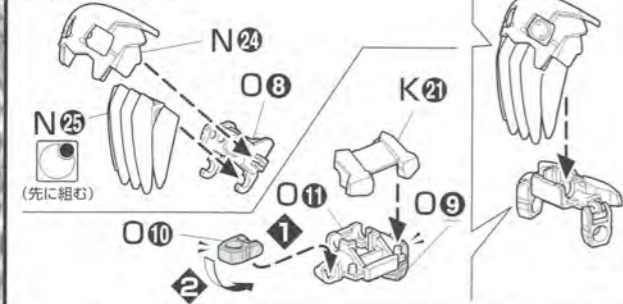


・組立16で使用するパーツ

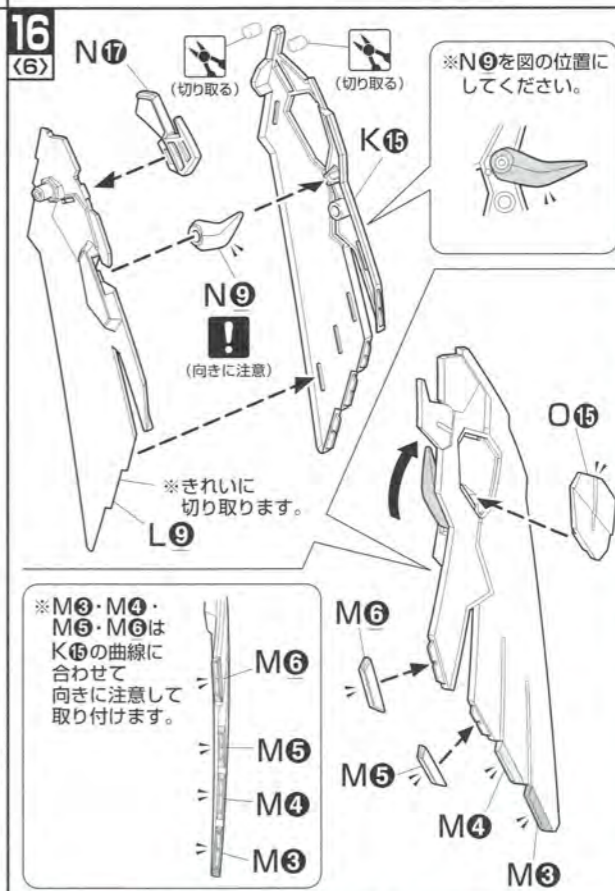
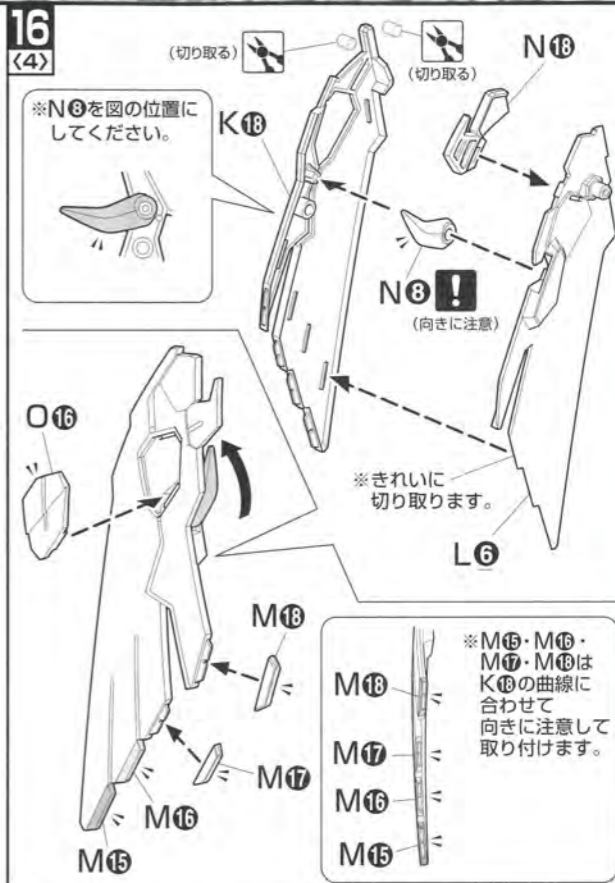
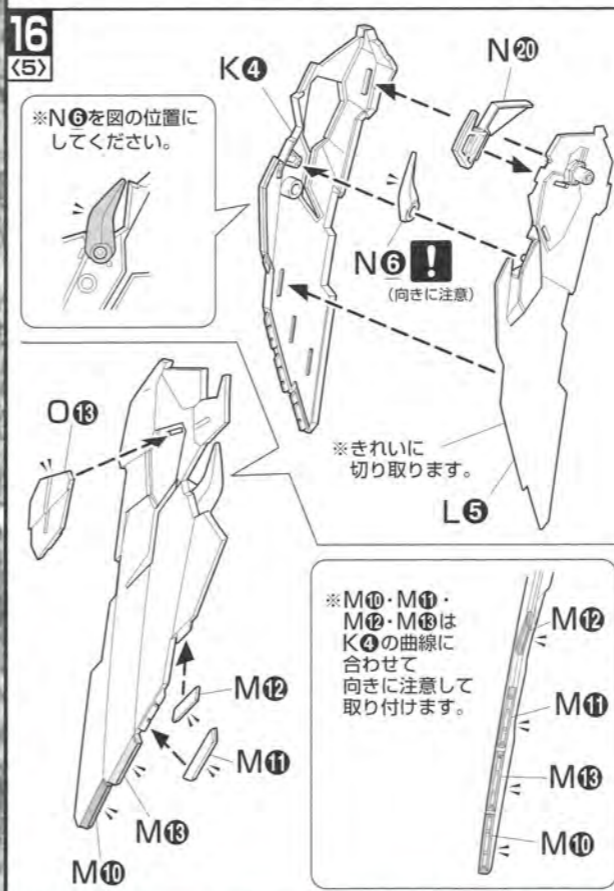
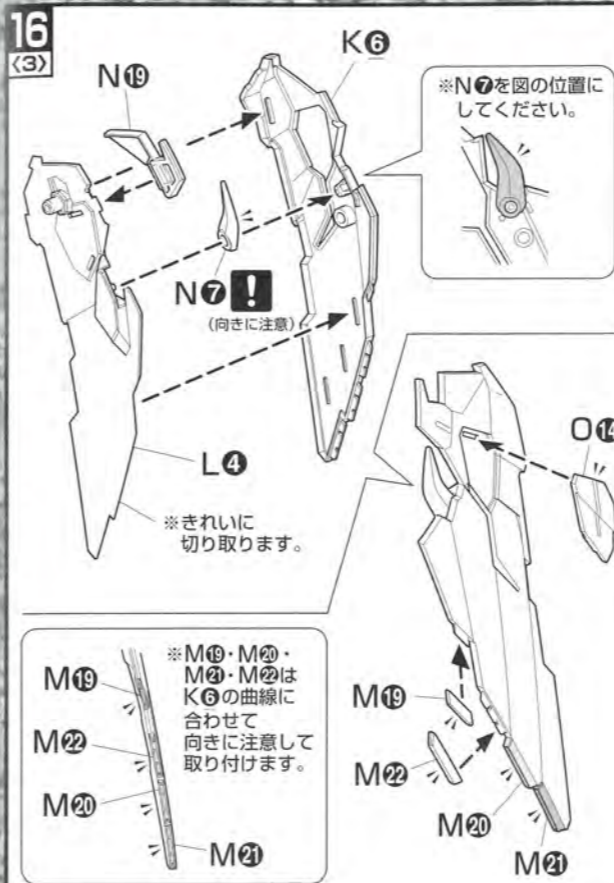
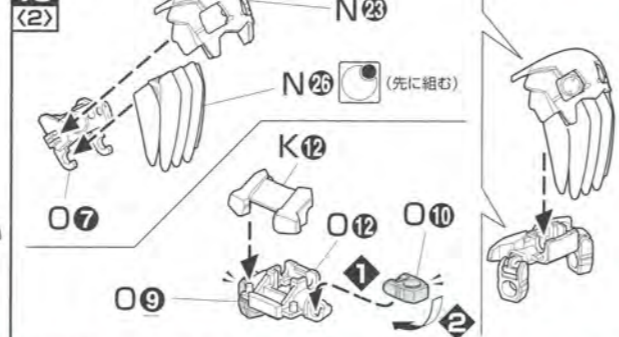


16 (フルクロスの組立)

(1) FULL CLOTH



(2)



16 (7)

※M23・M24はK7の曲線に合わせて向きに注意して取り付けます。

※きれいに切り取ります。

16 (8)

※M8・M9はK1の曲線に合わせて向きに注意して取り付けます。

※きれいに切り取ります。

16 (9)

※きれいに切り取ります。

16 (10)

※きれいに切り取ります。

16 (11)

16 (7) 16 (8) 16 (9) 16 (10)

※E2は好みの場所に飾ってください。

※図の部分の赤いパーツが前側になります。

WEAPONS (武器)

クロスボーン・ガンダムが運用する武装は多岐にわたる。それはこの機体が実験機であるという側面はもとより、運用する海賊軍の台所事情によるところが大きい。とはいえ、無数とも言える携行武器の豊富さや、単独では扱いにくいデバイスの転用など、そのアイデアと資材の活用術は特筆に値する。

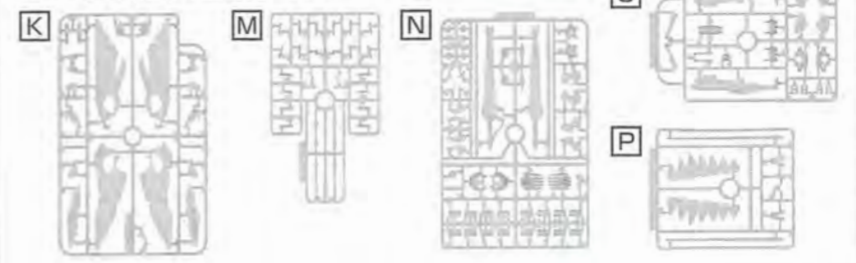
MURAMASA BLUSTER
「ムラササ・ブラスター」は、刀剣状の本体外縁部にビームエミッターを7対、計14基並べ、中央部にビーム・ガンを内装するマルチプルウェポンである。特にビーム・サーベルとして使用した際の威力は絶大で、ビーム・シールドでの防御は不可能とされる。また、ビーム・ガンの銃口からビーム刃を発生させ、ロング・ビーム・サーベルとしても使用できる。X3とともに輸送艦リトルグレイに供給された。

PEACOCK SMASHER
「ピーコック・スマッシャー」は、既存兵器の部材を寄せ集めて海賊軍が独自に調達した9発のビームを広域に射出するという特殊武装である。「ピーコック」は孔雀のごとく、ビーム・エミッターユニットが扇状に広がる様が孔雀の雄の尾羽をイメージしたもの。木星軍の極秘計画機「アマクサ」が暴走した際に「スカルハート」ことX1改・改が使用した。



17 18 WEAPONS

・組立 17・18 で使用するパーツ



17 (1) WEAPONS 1

02・06

03 01

17 (2)

N33 17 (1) N30・N31 N32

17 (3)

N33 N30・N31 N32

17 (3)

N33 17 (2) N28・N29 N35 N32

17 (4)

K13 17 (3) N34

17 (4)

O4 17 (3) K14

17 (5) (切り取る) M10 (4) M7 N1 x8 (8個作る) (切り取る)

18 (1) M2 M1 N12・N13 N10 N14 (両側取り付ける)

18 (2) 18で作った (1) ムラサキ・ブラスター P1! (向きに注意) P2! (向きに注意)

19 (1) WEAPONS 2

・組立 19・20・21 で使用するパーツ

A E H I P

・カラーシール
・ビーム・シールド

19 (2) WEAPONS 2

A17 E23 (シール) E20 E27

19 (2) E28 H9 E26 E25 H2 H7

20 E19 H1 (切り取る) (先に動かす) E21 H6 E22

21 (武器の装備2) WEAPONS EQUIPMENT 2

(両側外せます) (両腕に取り付けられます) (選んで取り付ける) (選んで取り付ける) (選んで取り付ける)

19で作ったバスター・ガン 20で作った ビーム・ザンバー

21 (2) ※A1は外しておきます。

1 2 3 4 5 6

21 (3) (両腕に取り付けられます) ※手首は図の位置にします。

1 2 3 4 5 6

切り取る (切り取る) (選んで取り付ける)

A3 A2 P4 P6

ビーム・シールド

21 (4) (両側に取り付けられます) (選んで取り付ける)

I 6

